

イチヨウラン

Dactylosteinia ringens Reichb. fil.

ラン科

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

もともと稀産の種類であるが、近年減少傾向にある。(現況:R-)

形態

イチヨウラン属は日本の固有属でただ1種本種のみを有するので、近縁種はない。根茎は細く、短く匍匐して毎年1本の太い根を生じる。葉は根茎の先に1枚着き、長さ3~6cm、幅3~4cmで肉質。花茎は長さ10~20cmで、大きさ2~3cmの花を1個茎頂に着ける。萼片と側花弁は淡緑色に紫の斑点があり、唇弁は白色で直立し、卵形、先端は三裂する。

国内分布

北海道、本州、四国に分布。九州にも分布するとされるが、最近の報告にはない。南千島にも分布。

県内分布

加賀中央区、南加賀区(白山麓)。

生態など

地生の多年生草本。開花期は5~7月。

生育環境

山地林の林床に生育。

危険要因

道路工事、園芸採取、産地局限。



林 二良・2001年5月29日・白山市

分布図はありません。